



# 投資日報

established in 1964

Investment  
Weekly Report

4/17

発行 株式会社投資日報社  
www.toushinipou.co.jp/

第9巻 第15号 通巻391号

## グレート・パワー・ゲームの開幕

— トランプ大統領の新戦略 —

### 【開帳】

トランプ米大統領は、取引を行う。

しかも、その取引はまず大きく吹っ掛けて、その後交渉する、というものだ。しかし、この手法を同盟国の日独や中国に対する貿易関係に使うことがあっても、そしてグローバル企業に対して個別に使うことがあったとしても、まさか軍事に使うとは、それも就任してから3カ月もたないこの時期に、シリアに対して一 つまりその背後にあるロシアと北朝鮮との緊張に苦慮する中国に対して一 軍事攻撃を行うことによって大きく吹っ掛けてくる、と予想していた人はほとんどいなかったはずだ。

### 【準備】

トランプ政権は1月以降、シリア反体制派への支援をひそかに減らしていた。その様子を見ていた世界の軍事評論家たちは、トランプ大統領は、アサド大統領存続の可能性を残す形でシリア問題の終結を図ろうとしているように見えた。つまり、テロとの戦い＝イスラム国の壊滅＝アサド大統領への妥協である。

もちろん、米国が米国時間6日実施したシリア空軍基地へのミサイル攻撃によって、必ずしもその見方が変わったと断定はできない。しかしその基地は、それより72時間前、化学兵器を使用したとみられる攻撃の拠点となったと考えられ、しかもその象徴的な場所であった。

これは明らかにトランプ政権が違った意思決定と行動をする政権出ることを強く示唆した一 それはシリア政府だけでなく、ロシアや中国、とりわけ北朝鮮といった米国の敵となり得る国に対し、米国の決意を示す強力なメッセージを送った。つまり「直接行動に出るに際し、妥協はしない。時間もおかからない。」ということだ。

実際、アサド政権の化学兵器使用は国際法違反であり、安保理でも支持されなかった可能性は高い。オバマ前大統領であったとしても、同様の措置を講じていたかもしれない。それでもオバマ大統領はもっと時間をかけたであろうし、国際マナーや安保理を尊重したに違いない。

2013年にシリアの首都ダマスカス近郊で化学兵器が使用されていた。その後、米国がシリアに対し軍事行動を検討していたのは今や公然の秘密である。それがロシアの仲介による合意で回避されたことも。実際、この合意により、シリアは化学兵器を放棄することとされた。シリア政府は保有するすべての化学兵器を引き渡したとして、化学兵器禁止条約に署名していた。米国は、実はシリアにも、ロシアにも裏切られたのであった。

このような行動を米国は最も嫌う。当然、何らかの形で報復は実施されたはずだ。それにしても、トランプ大統領の素早い判断は、オバマ政権からの転換を明示する。

### 【巧み】

とはいえトランプ政権の攻撃は、その後の拡大を自ら抑えたことにより、かつて泥沼に陥った対イラク戦争とは違うところも見せている。実際、一夜限り、空軍基地1カ所のみを標的にした攻撃は、2013年にシリアで化学兵器使用後に米国が検討していた軍事行動と比べるとはるかに限定的だ。米国は、シリア空軍や他の施設に対し圧倒的な攻撃を行い、アサド大統領の失墜することでもできる。そこまでやらないとしても、権力を弱体化するよう意図的に仕向けることもできた。しかし、素早い行動の裏で自制とも見える行動をとったことは、トランプ政権の巧みさである。

もちろん米国の行動は、ロシアを激怒させ、今回の攻撃を2003年のイラク戦争と比較させた。一方、米国は、シリア内のロシア軍に被害を与えないよう万全を期していたようだ。

これは、ヒラリー・クリントン氏が大統領選に当選したら検討するとみられていた一部の計画とは劇的な違いを示している。その計画には、米ジェット機がロシアの航空機を撃墜可能な「飛行禁止区域」の設置が含まれていた。

つまり、トランプ政権の今回の攻撃は「素早く迅速であったが、泥沼を回避する意味では巧みであった」（国際軍事筋）といえる。

### 【意図】

今回の攻撃が米国の対シリア政策にとって何を意味するか。

化学兵器使用が疑われた攻撃が起きる前、ティラーソン国務長官とマティス国防長官の2人とも、米国政府はアサド大統領の退陣にこだわらないことを示唆していた。トランプ政権が伝統的なアプローチに戻り、シリア反体制派を支援することで、アサド政権をできる限り弱体化しようとする可能性は残されている。

だが、トランプ政権は、シリアでの主な優先事項は今後も過激派組織「イスラム国」掃討であり、同組織が事実上、首都とする北部ラッカを壊滅させることだ。そのためには、アサド政権に対する攻撃も限定的となるのだ。逆に言えば、現時点では米国がアサド大統領の退陣を望んだとしても、そのための確かな方法がないことだ。軍隊を大量に派遣して介入する気もない。

そしてトランプ大統領は、伝統的な米国の思考と違い「独裁者とは交渉することを望む」（同）。

実際、トランプ大統領はイラクとリビアにおける教訓として、地域の絶対的指導者を排除することは往々にして悪い考えだという。つまり今回の限定的攻撃は、その華々しいヘッドラインとは異なり、今回の攻撃はあくまで限定的であり、米国の中東政策の変更ではない。その意味において、「最小のコストで最大のバリューを生み出す」というトランプ氏のビジネス思想をそのまま体現した限定攻撃であった、といえる。

そして、何より大切なのは、隠された強いメッセージの存在だ。

それは北朝鮮、そしてその主な支援者である中国に向けてのもので、トランプ政権は、軍事力の脅威によって、北朝鮮の指導者である金正恩朝鮮労働党委員長が核とミサイル開発を放棄させようとしている。北朝鮮に対して「ありとあらゆる選択肢がある」という言葉が非常に強く、脅威をもって受け止められるようになったはずだ。日本の安倍首相がこれだけ素早く支持を表明一それも同盟国においてもほぼ唯一一したのは、日本もまたこの北朝鮮の脅威に強く苦しめられているかに他ならない。

中東においてはイランが脅威を感じたはずだ。

イランは米国の軍事的脅威と制裁に直面し、核合意の下で自国の核開発を制限していることになっているが、トランプ大統領は、前政権下で結ばれた同合意について、生ぬるく、再交渉したい考えを示している。

そして、ロシアである。同国が化学兵器使用について事前に知っていたかどうかは不明だが、米国が行動を起こして以来、腹立たしく思っていることは間違いない。米国のシリア攻撃は、ロシアが米大統領選でトランプ氏を当選させるよう介入したとの疑惑があるにもかかわらず、あるいは、恐らくそうした疑惑の結果も鑑みて多くが予想している通り、トランプ政権がより強硬な態度を取るかもしれないという、明らかなメッセージを発している。

たった一夜の攻撃に過ぎなかったが、これだけ強烈なメッセージを送ることが出来たというのは見事としか言いようがない。

### 【今回は意図的にハト派的な姿勢に転じる】

バノン首席戦略官兼上級顧問が米国家安全保障会議（NSC）のメンバーから外された。

バノン氏失脚の兆候は、辞任に追い込まれたフリン氏の後任であるマクマスター大統領補佐官（国家安全保障問題担当）の権限強化にすでに表れていた。

マクマスター補佐官の行動は、「比較的明白でシンプルな目標とともに、明確に定義された、限定的だが断固たる行動」、ということである。だが、彼のコントロールが効かなくなれば、トランプ大統領の「考える前に行動する」という衝動を抑制できなくなってしまうリスクはある。しかし、現時点においては、トランプ大統領とマクマスター大統領補佐官は絶妙なコンビとなっている。だが、想定以上の影響を国際政治の相互作用を及ぼす可能性もある点は注意したい。

とにかく、米国の国際関係はその軍事力を効果的に使うという意味で、新次元に入ったといえるだろう。

# テクニカル

一触即発の状態

先週の日経平均株価は続落し、18,300 円台まで突っ込んできた。円高／株安の同時進行。シリア、そして一触即発状態にある北朝鮮情勢、さらに米ロ関係も悪化の兆しを受け、世界の株式市場は悲壮感が漂い始めた。4月15日以降、もし北朝鮮の核実験、ミサイル発射等がおこなわれると、米が朝鮮半島に向けた空母からの出撃が懸念される。最悪の場合、北朝鮮が破れかぶれでミサイルを日韓に発射する恐れもあり、そうなると危機は現実化する。そうはならないと思うが、もしそれが起これば株式市場は機能がストップするだろう。そのような懸念を抱えて、今週以降、北朝鮮の記念行事を迎える。

15日は金日成主席の生誕 105 年、25日は朝鮮人民軍の創設 85 年と、今月末にかけて相次ぐ記念日を控えている。これらの節目に合わせて6回目の核実験や、さらなるミサイル発射に踏み切る可能性があるとして、関係国が警戒と監視を強めている。それに対して米軍が軍事制裁に踏みきった場合は日韓のリスクは最高潮に達するだろう。北朝鮮から飛んでくるミサイルは今のところ防ぎようがない。

## 今週の押し 二度ある事は三度ある

イースターで先週末のNY市場がお休みになっている中で、北朝鮮では「ミサイル」の発射に失敗。場が立っていれば、値動きが二転三転していたのではないかとと思うとゾッとします。

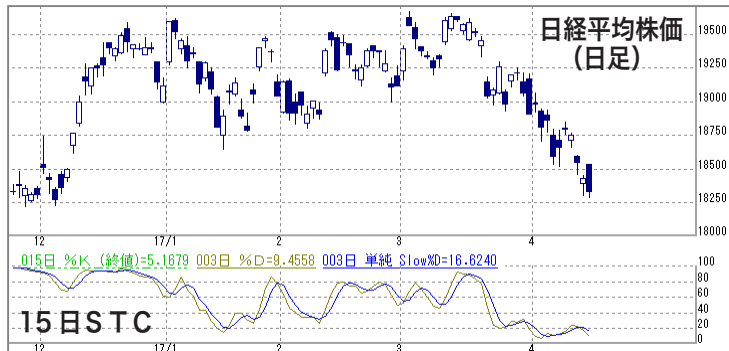
今週末 23 日にはフランスで第 1 回目の大統領選投票が行われる。恐らくここで相場は二転三転するのではないかと。

テクニカル、特に 15 日スローストキャスティクスを見ると、ドル／円、ユーロ／円、そしてユーロ／ドルの数値が軒並み売られ過ぎの領域に入っている。逆にドル指数は買われ過ぎ。そろそろ何らかの変転ポイントに来ているところに仏大統領選がやって来る。すんなりと決まりそうにないだけに不明瞭である。

この不明瞭さに関して、当欄で採り上げているユーロドル相場については先週次の通り記述「恐らく今月は下値模索の展開が続くのではないかと。…日柄の問題も重要だ。ここ 2 回、この相場は 30 週前後で大きな節目となる安値をつけているが、細かく見ると大半が 8～10 週ごとに安値が出現している。1 月

東京にでも落ちれば市場は機能せず、株式どころではない。このような最悪の危機が到来する確率は低いが、備えをしておく必要がある。

テクニカルは以前からの見通し、株価の下値目標をトランプショック以降の上昇幅の 50% 訂正ゾーン 17,889 円 ±419 としていたが、上述の最悪のケースではさすがに下値のメドは立たない。しかし、地政学的リスクが排除されれば、株価は反転して V 字回復するとの見通しも変わらない。ただ北朝鮮の緊迫状態が続く限りは下げトレンドがまだ続きそうだ。今週は見送り。



3日の安値 1.0341 から見ると、7週間後の2月22日の安値 1.0493 から今週は7週目。過去の日柄から見ると相場は恐らく今週も安値を指向し、早くても来週、遅くとも黄金週間明けまでにボトムアウトするのではないかと。従って買い方は1～2週待つてみるのが得策と考える”。実際、相場は10日に安値を更新した。

この日柄問題と合わせて日足を見ると、昨年12月～1月、2月末～3月頭の安値形成過程と現在の動きが良く似ている。特徴的なのは、過去2回の安値形成場面で先述の15日スローストキャスティクスがダイバージェンスの関係になってから反騰を開始しているという点である。つまり、売られ過ぎから相場はいったん反騰するも、その後反落して安値を更新しているのだ。

従って、過去のパターンから恐らく相場は目先反騰する可能性がある反面、もう一度4月10日の安値 1.0569 を割り込みにかかるような下げが5月あたりにあるかも知れない。慎重派は、そこまで待つてから買い参入しても良いのではないかと。

ただ、リスクのとれる短期積極派は10日安値以下の引け値にストップロスを入れて買い参入して良いだろう。恐らく上昇は23日移動平均突破で本格化する。利食い算段はその時考えよう。

## 今週の主な予定・経済統計

### 4月17日(月)

- ・FRB副議長講演 ・イースターマンデーで欧州は休場
- ・4月の米NY連銀製造業景況指数 (15.00の予想、前月は16.4)

### 4月18日(火)

- ・3月の米住宅着工件数 (125万件的予想、前月は128.8万件的)
- ・3月の米鉱工業生産指数、及び設備稼働率
- ・カンザスシティ連銀総裁、講演 ・IMF世界経済見通し
- ・ペンス米副大統領来日、経済対話

### 4月19日(水)…下弦

- ・日銀金融システムリポート公表 ・ボストン連銀総裁、講演
- ・米地区連銀経済報告 (ページブック)

### 4月20日(木)

- ・パウエルFRB理事、講演 ・トランプ米大統領・伊首相、会談
- ・G20財務相・中銀総裁会議 (ワシントン、21日まで)
- ・4月の米フィラデルフィア連銀景況指数 (26.0の予想、前月は32.8)
- ・3月の米景気先行指数 (前月比0.2%の上昇予想、前月は0.6%上昇)
- ・米週間新規失業保険申請件数 (前週は23.4万件)

### 4月21日(金)

- ・3月の米中古住宅販売件数 (560万件的予想、前月は548万件的)
- ・ミネアポリス連銀総裁、講演 ・IMF・世銀、春季総会

### 4月23日(日)

- ・仏大統領選挙第1回投票



### 今週の相場風林語録

#### 天井売らず、底買わず【2】

底買わずも、大底と判断して信念で買ったのならいいが、なんとなく買って、その買い玉に利が乗ると早々と利食いして、あと高ければ売ってみたいと損する。



## 今週の九星★波動

円高の流れの終盤？

南雲 紫蘭

米中首脳会談は共同声明なし、記者会見なしという稀にみる冷め切ったものとなりました。トランプ大統領は、交渉を旨としています。一方で極めて感情に流されやすい独裁者の一面もあります。勿論、予算や行政の中には大統領を法律で縛るものがあります。ですが、軍事だけは大統領の専管事項であり、こと軍事においては法律も議会も結果的には抑えることが出来ても、瞬間的な判断は大統領専任なのです。

ある意味、核のボタンも押せるわけで、世界で最も恐ろしい権限をトランプ大統領が握っているということになります。

そうしたトランプ大統領がその持てる権限を精一杯利用したのが、米中首脳会談中に行なわれたシリア攻撃です。

テロに悩まされた米国は、敵の敵は味方とばかりアサド政権に何とも微温的な態度をとってしまったのですが、広い意味でアサド政権への対抗勢力であったイスラム国征討で、バランス

を崩すほど力を得たアサド政権への攻撃はトランプ流の新しい交渉が始まったということなのかもしれません。一番心胆寒からしめたのは中国で間違いないでしょう。

さて、九星高下伝は4月頭から《六白金星》に入っています。

「前後相反。円高の流れも4月中旬まで」。

この流れが続くかどうかの正念場に入りつつあります。

4月3日	4月4日	4月5日	4月6日	4月7日	4月10日	4月11日	4月12日	4月13日	4月14日
月 (九紫火星)	火 (一白水星)	水 (二黒土星)	木 (三碧木星)	金 (四緑木星)	月 (七赤金星)	火 (八白土星)	水 (九紫火星)	木 (一白水星)	金 (二黒土星)
寄りに戻る	陰値	弱保合	虚勢	後上がる	存外強し	後場急変	寄りに戻る	陰値	弱保合
4月17日	4月18日	4月19日	4月20日	4月21日					
月 (五黄土星)	火 (六白金星)	水 (七赤金星)	木 (八白土星)	金 (九紫火星)					
天底	前後相反	存外強し	後場急変	寄りに戻る					

## 相場指南道場

## トレーダーあすなろ物語 (391)

中原 駿

「まあ、こんなに濡れて」。

しばらく見ないうちに、母はもう老婆とっていい疲れ方をしているようだった。

顔のしわは深く、でも表情は明るい。それでも、厳格な父と二人暮らしは堪えている様であった。

たまに震える指先に、神経が少しずつ持っていかれている様子が伺えた。いつまでも父と二人暮らしはよくないのかもしれない。日本に戻ったら、一緒に住んであげなくてはならないかもしれない。そんな思いが頭をよぎるが、同時に妻のあきれられるほど上野の実家を嫌っている様子も思い出された。

「どうにもならないな」。

## 第六感の 下値目標に届く



テクニカルアナリスト 葛城 北斗

## ボトムフォーメーション待ち

ドル円相場は108円台まで下落。以前からの下値目標値の上限領域に届いた。

過去2週間のコメント「今回の調整は通常なら昨年6月から12月までの上昇幅に対する38～62%で収まるはず。そのレベルは111.13～106.50。訂正の幅が大きいのだが現在は38%レベルがやや更新されたが、最初の止まるべき地点。しかしチャートパターンではダマシの下抜けでない限り、もう一段下落して50%レベル(108.80前後)は見ておく必要がある」。ここまでの安値は13日につけた108.72。

地政学的リスクの高まりを受け、円が買われているものの、このリスクが北朝鮮関連となれば、いずれ日本にも緊張感が走る。ミサイルの一発が日本の人口密集地に落ちれば、直ちに円安へと吹飛ぶだろう。このリスクオフの流れは円安である。

サイクル的には7～11週サブサイクルの位相が現在は不透明。まだボトムを付けていなければ、今週は10週目になる。4月末までには一旦ボトムをつけると見る。

先週は「今週の戻りが114円を超えなければ未だボトムを付けていないことを示す。中途半端な戻りに終始するなら、その戻りの倍返しも視野に入る」と述べた。

先週の高値からの倍返しは108.69。これはほぼ達成。次は3月27日安値から31日高値までの倍返しで108円丁度。最終的には先月述べた下値目標値までを見ておく必要がある。

上野は独りごちた。

そうだ、どうにもならない。

どうにもならないのは上野のシンガポールでのポジションでもあった。東京の人間関係のようにも思え、同時に上野の家の関係でもあった。どこもここも八方塞がりだ。

上野は袋小路に入ってしまった自分を強く意識しなければならなかった。体がずっと重くなったように思った。その時だ。

「帰ってきたのか。どうして連絡もせずに帰る」。

上野の父親の重く掠れた声だった。この声の上野は大嫌いだった。その声が地面を震わすように響いてきた。

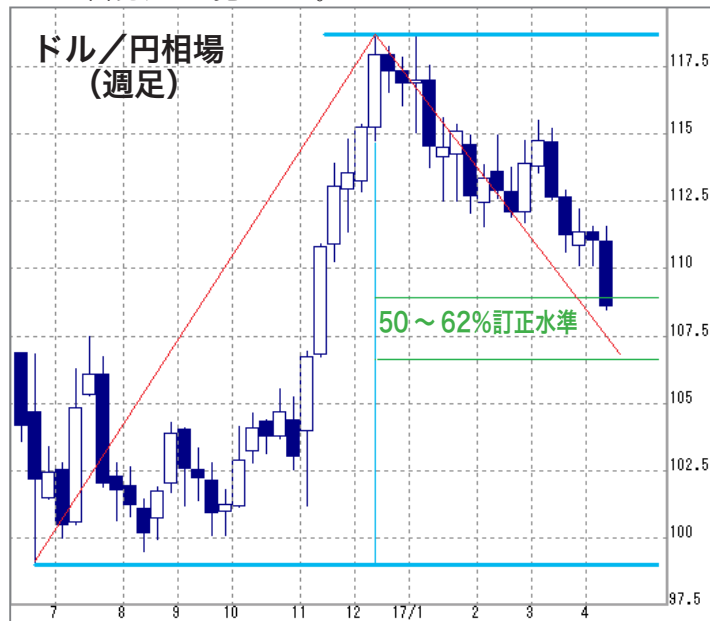
最も性格が悪く、凶暴で、自分勝手な男の声。

これが嫌で嫌で田舎を捨てた。そんな声が響いた。

帰ってきたのにどこに文句をつける意味があるのか。少しは嬉しそうにしたらいいのに。上野はそう感じていた。

即ち「今回の調整は通常なら昨年6月から12月までの上昇幅に対する38～62%で収まるはず。そのレベルは111.13～106.50。訂正の幅が大きいのだが現在は38%レベルがやや更新されたが、最初の止まるべき地点。しかしチャートパターンではダマシの下抜けでない限り、もう一段下落して50%レベル(108.80前後)は見ておく必要がある」。

62%押しとなれば106.50。ボトムフォーメーションを見極めてから買い出動する。それはまだ出現していないが4月末までには出現すると見ている。



## サイクルだけ話します。

— メリマン・サイクル理論 備忘録 —

## 【第36回】ユーロ/円相場のサイクルについて (3)

ここまででユーロ/円相場の長期相場サイクルは4年サイクル(48カ月)が有効という所まで来ました。通常、サイクルは2分割ないし3分割されますから、このサイクルは2つの2年サイクル(24カ月)か3つの16カ月サイクルで構成される筈です。更にサイクルは通常、前後に全体の6分の1の日柄がオーブ(許容範囲)として組み込まれますから、前者は20~28カ月のレンジを持つサイクルが2つ、後者は13~19カ月のレンジをもつサイクルが3つ存在する筈です。

この仮定を踏まえて月足をカウントすると、どうやら前者が有力なようです。2009年1月21日の安値から2000年8月24日の安値までは19カ月と日柄が短いですが、そこから2012年7月24日の安値までは23カ月、2014年10月16日の安値までは27カ月、昨年6月24日の安値までが20カ月となっています。これにより、12、24、48カ月の移動平均線を入れて作成したものが右の月足になります。

ここで注目すべきは、昨年6月以降の相場で12カ月平均は突破されている反面、残りのラインは突破されていない点です。

2年サイクルが有効なら、サブサイクルは1年サイクル(10~14カ月)2つか、8カ月サイクル(7~9カ月)サイクル3つに分割される筈。今が昨年6月から10カ月目という点、現時点で12カ月平均を相場が割り込んでいるという点も気になります。仮に1年サイクルが有効ならば、現在はそのボトムが形成される時間帯に入っているという事になるからです。

長期的に考えるなら、12カ月平均を突破したところで次のサブサイクル入りが確認されるでしょう。そこから最終的に48カ月平均を目指す旅が始まるという事になる筈です。



## メリマン通信 — 金融アストロロジーへの誘い —

## 決戦は金曜日?

当欄では2週間前からこう記述“…土星逆行に伴って、8日と21日に金星と土星は2度正確な90度の関係になる。実はこのスクエア、1月27日にも発生しており、この時、NY金は安値から反発している。相場変動に関係しやすい天体位相が集中している時間帯は、往々にして変化日となりやすい。今月2回目のスクエア形勢場面である4月21日付近では水星逆行の中間点があり(4月20日)、火星が牡牛座から双子座へサインチェンジする(4月21日)。従って星回りの大きな節目をつけるのは20~21日付近ではないかと筆者は予測する”。いよいよ、この時間帯に入ってきた。ただ現在は水星逆行中。これに関して先週次の通り述べた“10日から5月3日(日本時間4日)までは水星逆行期間。…逆行期間は開始日と終了(順行)日、中間地点が転換ポイントになりやすい。そうすると、金星が逆行

から順行に戻る4月15日前後の営業日である14日と17日は、反転ポイントとして要注意という事に。つまり“逆行”というポイント一つとっても、今週10日、14日、来週17日、21日と4つの営業日が変化日となり絞りきれない。「利食いは早く」が合言葉の水星逆行期間にふさわしい星回りと言える”。ユーロ/ドル相場が直近の安値、ドル指数が直近の高値を更新したのは10日。日経平均株価、ユーロ/円、ドル/円がそれぞれ直近の安値を更新したのは14日であった。従って、前号の見立てが今週も適用されるなら、17日と21日の相場では何らかの節目となるポイントになる公算が高い。

その中でも、やはり今週末は変化日として重要ではないかと筆者は考える。何故なら、ここまでの記述に加えて、下弦の月(19日)、太陽の牡牛座へのサインチェンジ、太陽・水星コンジャンクション(0度)、冥王星逆行(20日)、逆行中の水星による牡羊座へのサインチェンジ(日本時間21日)も重なるからだ。決め打ちは禁物だが今週末の反転に筆者は賭けたい。

WEBサイトより一足早く、1週間分まとめ読み!!

## 今週のアストロロジー info

- 4月17日(月) 金星順行に戻るも水星逆行中
- 4月18日(火) 一方向に偏った動き
- 4月19日(水) 上下変動激しい
- 4月20日(木) 水星逆行中間点 何かが変わる
- 4月21日(金) 週明けトレンド加速に備える
- 4月22日(土) ショック安に向かい
- 4月23日(日) 材料出尽くしからの反転は調整かトレンドかが重要

高く仕入れて安値で投げる投資家から  
脱却してアクティブブシニアになろう!

四半世紀以上、投資の最前線で活躍してきた  
「プロ中のプロ」が語る現在の株式市場とは

- ◎マイナス金利時代に株を持続  
けて成功する秘訣を解き明かす
- ◎10倍になる株など豊富な実例  
で銘柄発掘の心得を公開!
- ◎株式投資の実践編として〈有望  
銘柄掲載〉!



## 株で資産を蓄える

~バフェットに学ぶ失敗しない長期株式投資の法則~

S・アダチ&カンパニー  
代表取締役社長

足立 真一 著

発行: 開拓社 定価: 1,296円(税込み)

2017年は相場の節目か?

星を読む。サイクルを読む。市場を読む。  
Feel the star. Feel the cycle. Feel the market.

フォーキャスト2017

アストロロジーとサイクルで  
2017年の相場を読み解く究極の書

レイモンド・メリマン 著 秋山日振香・投資日報編集部 訳  
投資日報出版発行 8100円(税込・送料別)

簡単・便利な『投資日報オンラインショッピング』もご利用ください。

お問い合わせ: 投資日報出版(株) <http://www.toushinippou.co.jp/>  
〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町3-12-11 GRANDE 人形町6F 電話: 03-3669-0278 FAX: 03-3668-4444